

1 作品名 2 作者名 (敬称略) 3 作者のコメント



1 内側のかたち
08-3 ORGANO

3 外側を幾何学的な単純な形状として認識し、内側を幾何学的な有機的な形で形態を追っていくという考え方で作品を作っている。今回私が使っている色は、日本の神社などで古来より使われているオレンジと白。言ってみれば私にとって日本の色を使いました。



1 想像の泉

2 槇歩

3 この作品は、刻一刻思い巡らす時の経過を大きな要素と考えます。背を向け帰途、心静かな充実感が望めそうにないが、ふと振り返る、そういう場を想定します。



1 月臨環 0809
瞑想のトンネル

2 藤島 明範

3 四角い環状の石は、この扇状地の地盤と何を語り合うことできるか。あるいは瞑想の装置としてあることができるか。ひとつの四角い石を分割して考えたことです。



1 呼吸・雨引

2 望月 久也

3 呼吸は生命活動の基であるとともに、人生の始終ともいえます。作品のある場所は、かつて鉄道のホームでした。そこに残る桟橋は、往時今も呼吸し続けています。この作品は存在が移ろう印のようなものです。



1 隠し砦の...

2 島田 忠幸

3 むきだし岩盤の壁、散乱する大きな石、この荒々しい風景に作品を置いてみたかった。環境条件によって作品の見え方は大きく変化する。この場所だから出来る事があり、その気がした。



1 道の記憶

2 古川 潤

3 今は使われること無くひっそりと佇んでいる建家。その脇にあった小さなスペース。聞く、そこはかつて屋敷へ通じる馬の道だったそうです。そして私が作品を置くことでその道に新しい記憶を書き加えられる事を想像して、少し嬉しくなりました。



1 風と箱

2 中村 ミナト

3 これは風の箱である。遥から吹く風を捕まえようと思った。いくど掴んでも跳ね返り逃げていく風。もうこの黄色い箱に収めようとするのは止めよう。山にでも平原にでも、好きなところに行くがいい。



1 ここから

2 横山 飛鳥

3 草原をゆらす風、見上げれば遠く広がる空。時に立ち止まり、またある時には振り返りながら、ここから、この道を、また歩いていきたいと思っています。



1 鳥 925

2 大栗 克博

3 自然が生命を閉じる晩秋に会場を見て回った。遠く雨引観音からは昼を告げる鐘の音が聞こえた。その時、その場からたくさんの鳥達が、羽音をたてて空に飛びたっているんだね山のふもとに休耕田。それでは、私の作品もどうかひとつ。



1 周遊犬

2 田中 毅

3 祭りが近付いた。大きなけやきの下では、自分たちも参加しよう、と、神社や山を守る犬たちが、林の中から現れた。いろんな犬たちが、木の回りを回って遊んでいる。今度は、山車を引っぱるのを手伝ってもらおうかな。



1 塊のかたち

2 山添 潤

3 石を見つめ、石を彫る。砕け散る一片、残される跡。手から伝わる反発を感じながら思う。この一打はどこまでとどいていくのか？どこまで響いていくのか？沈黙する石。石が守り続ける沈黙を破ることができたと思う。



1 雨引く里の花環

2 國安 孝昌

3 何度も雨引を訪れていると、変わるものと変わらないものが理解できる。静かに変わらないものを見つめ、刹那に捉えてみたい。残ることはなく残せるものもない。十分に長い時間、循環と繰り返す、私はひとつのことに満足にできていない。



1 クイックシルバー
11・12・13

2 山本 糾

3 写真の場所は何処にあるのだろうか。われわれがものを見る視線とものがわれわれを見つめ返す視線が交わる。そこに写真の場所はある。自分の意志で対象を選んで写真を撮っていると思っっているが、本当はものの方がわれわれを選んで写真を撮らせているのである。



1 天壤「瓶型」

2 齋藤 徹

3 私のアトリエの隣家が水害に遭い、他人事とは思えない緊迫感と自然の力に驚かされました。今回私が制作していたのは、瓶のようなものなのです。隣家の被害で少しばかり考えてしまいました。恵みはただけでないものでしょうか？



1 Figuration

2 小日向 千秋

3 燃える炎。立ち上る煙。かたちがあるようでもかたちのないものをかたちとしてこの目に映しとりその瞬間を両の手で再現してみよう。黒い影のように存在するそのかたちは風の中で止まった時をかたちづくる。



1 能力I

2 海崎 三郎

3 熱が作り出したわずかな深さと空間。かき消すことで現れる一瞬という際。目覚めようとする負の無垢性に、鉄も私も試されている。



1 ひかりのなかで

2 齋藤 さだむ

3 雨引の展覧は、毎回展示空間エリアが変わり、参加者は適切な場所選りから始まる。はじめて参加する私が選んだのは、漆黒の闇を感じさせる空間。人類は闇を侵略し明の場所を文化の証としてきた。さて、私はこの空間とどのように結ばれるのだろうか。



1 剪定季

2 山本 憲一

3 剪定された樹木の断面に着目し、石に切り込んだ断面と景観を覗き込む事でそこから発見できる芽吹くまでのきつかけにあればと考えます。合理的で理不尽な合い反する仕組みによって生まれる偶然の調和をこの景観から感じて頂きたい。



1 黒体

2 村井 進吾

3 この黒い石の表面は外部であり内部である。



1 水平孔・鉛直孔

2 廣瀬 光

3 スーパーマリオには「土管の世界」というのがあるそうだが、漫画「ドラえもん」のほうがない感じが深い。よく空地に3本積み重ねられている場面が描かれ主人公のび太が昼寝をしたり隠れたりする。この空洞は現実から離れた別空間になる。



1 記憶の領域 2008

2 西成田 洋子

3 約50年前の映画「黒いオルフェ」。その冒頭で、子供が紙で作ったと思われる太陽を高く飛ばすシーンがある。丸く黄色いそれはリオの街の上をひらりと所在無げに漂っている。私の大好きな場面。なんとも稚拙なものが楽しい。そんなものができたと思う。



1 バビリオンで「HAILAND」の話をしよう

2 中村 洋子

3 この旧バビリオンがもつ、内のような外のような場を生みだす構造と、周囲の景色を浮かあがせたり、隠したりする様子に興味をもった。このような空間に「浮遊」と「入れ子」の関係を作組んで保存されてきたこの建物を再構築しようと思った。